海外研修報告　ストックホルム 2015＜秋＞

①都市視察

ハンマルビー・ショースタッド（Hammarby Sjöstad）

ロイヤル・シーポート（Royal Sea Port）

森の墓地（Skogskyrkogården）

②コレクティブハウス視察

Sockenstugan

Dunderbacken

Kollektivhusföreningen Färdknäppen

③高齢者施設視察

Attendo Kungshamn

Hornstulls Äldrecentrum

都市視察

■ハンマルビー・ショースタッド　Hammarby Sjöstad

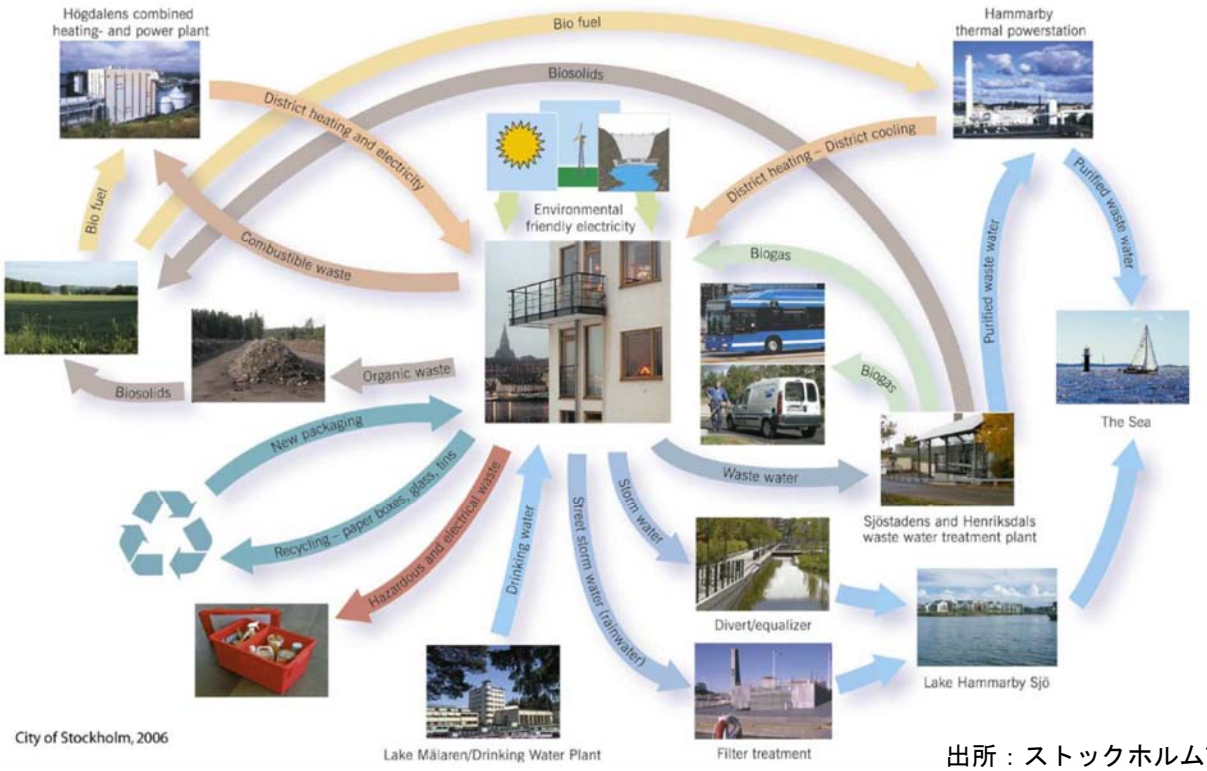
ハンマルビー・ショースタッドは、中心市街地から南に約 5km に位置し、ストックホルム市が手がける最大の地域開発プロジェクトです。開発面積は約 200ha（湖水面積 30ha 含む）で、住宅の計画戸数約 1 万戸、居住人口 2.5 万人、就業人口 1 万人、商業・業務施設の延床面積 20 万 ㎡となっています。

従前はハンマルビー・ショー湖を囲む地域の小型漁船・ボート等の造船所地帯で、2004 年のストックホルム五輪招致の際に開発が着手されました。五輪招致失敗後も「ハンマルビー・モデル」と呼ばれるサスティナブルなまちづくりが進められており、世界から注目されています。

□ハンマビー・ショースタッド位置図

＜ハンマルビー・モデルの概要＞

○必要エネルギー量の半分を賄うべく、住宅施設の冷暖房や、市営バス、タクシー、ごみ回収車、ガスストーブ等の燃料として廃棄物や下水を活用、地域内で循環させるシステムを構築。
○太陽光パネルを設置し、太陽熱を温水供給のために使用しているほか、四重窓等による住宅・建築物の断熱化、空気を水に溶かす技術により節水を促進。
○環境に優しい交通を推進し、「中心部に路面電車（トラム）の導入」、「中心部にアクセスするバスルートの整備」、「バイオガスで動くフェリーの運航」等、公共交通の充実　等



出所：ストックホルム市

□バイオガスで走るトラム

□対岸からみたハンマルビー地区の様子

□住宅の外観

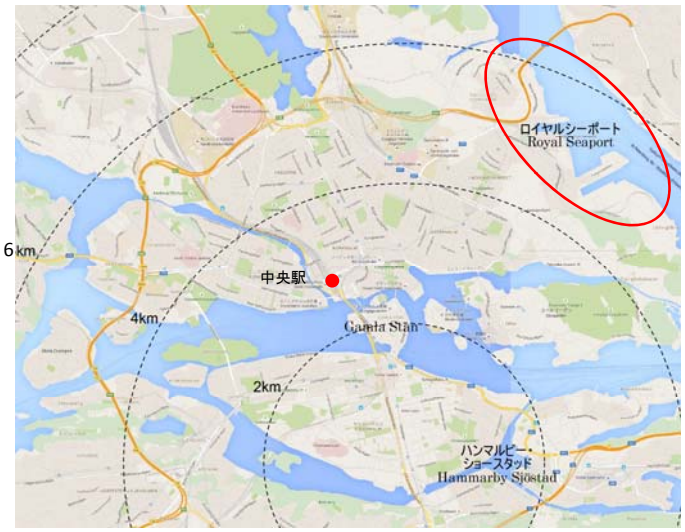
□分別式のダストシュート

□地区内に整備された学校の外観

■ロイヤル・シーポート　Royal Sea Port

ロイヤル・シーポート(Royal Sea Port)（現地名Norra Djurgårdsstaden）地区は、ストックホルムの中心部から北東に約３km離れたバルト海に面したエリアで、英文名の「Royal」は、市がかつての王室所有地を承継したことに由来しています。

従来は、バルト海沿岸諸国向けの国際旅客航路のターミナルとしての機能を有し、これに関連して石油・ガスタンク基地としても使用されていたエリアでしたが、市の中心部から至近距離にあるというメリットを生かしてより高密度な土地利用を行うとともに、環境に優しい持続可能な街づくりを行うことを目指し、市の特別環境プログラムの中の戦略的プロジェクトの一つに位置付けられています。



□ロイヤル・シーポート位置図

地区の開発面積は 236ha で、住宅の計画戸数 12,000 戸、就業人口 3 万人、業務・商業施設の延床面積 60 万㎡となっており、完成予定は 2030 年とされています。同市で先行するハンマルビー地区でのまちづくりの実績と経験を活用しながら、スマートグリッドを活用したサスティナブルな都市の構築が進められています。

＜目標（デベロッパーに対する条件）＞

○建物全体でエネルギー消費を 55kWh / ㎡・年以下とすること ○消費電力のうち、30%を地区内で生産された再生可能エネルギーで賄うこと

□完成イメージ

出所：ストックホルム市

□文化施設として転用予定の石油タンク

□整備された集合住宅の外観-1

□整備された集合住宅の外観-２

□整備された集合住宅の外観-３

□ゴミ置き場や自転車置き場の様子

□分別式のダストシュート

■森の墓地(Skogskyrkogården)

スウェーデンを代表する建築家であるグンナル・アスプルンド(Gunnar Asplund)とシーグルド・レーヴェレンツ(Sigurd Lewerentz)によって設計されたのが、スクーグスチルコゴーデン（Skogskyrkogården）です。「森の墓地」という意味のスクーグスチルコゴーデンは、1917 年に建設が始まり、1940 年に完成、1994 年に世界遺産に登録されています。

この墓地は、ストックホルムの中心地から地下鉄でわずか 15 分の立地にあることを完全に忘れさせるほど、穏やかで厳かな空気を生み出しています。全体で約 102ha あり、スウェーデンで 2 番目に大きな規模の墓地となっています。敷地内には、5 カ所の葬儀チャペルと屋外のセレモニー会場があり、今でも年間約二千ほどの葬儀のセレモニーが行われています。

「人は死ぬと森に還る」、スウェーデンの人々の死生観を表したこの墓地は、丘陵地帯の地形をそのまま生かし、建物も森に溶け込むよう工夫されています。

アスプルンド設計の花崗岩の十字架は、「生・死・生」 生命循環のシンボルとしてつくられました。この巨大な十字架の近くには「森の火葬場」と３つの礼拝堂（「信仰の礼拝堂」「希望の礼拝堂」「聖十字架の礼拝堂」）が立地しています。

レーヴェレンツ設計の「瞑想の丘」は「森の火葬場」の西側に位置しています。楡（ニレ）の木の茂る丘は、広大な針葉樹の森と「復活の礼拝堂」を見下ろせる高台となっています。

□生命循環のシンボルとしてつくられた花崗岩の十字架と礼拝堂

□墓地の様子

□楡の木の茂る瞑想の丘

コレクティブハウス視察

■Sockenstugan の概要

Sockenstugan は、ストックホルム中心部の南側に位置する 40 歳以上の方々を対象としたコレクティブハウスです。

建物はもともと第２次世界大戦後の 1947 年に２棟の４階建て高齢者用住宅として建設されました。その後、1999 年に住宅供給会社によって、コレクティブハウスに改修されました。ストックホルム内では、唯一の改修によって整備されたコレクティブハウスです。

従前の住棟部分は、25 ㎡１タイプの住戸でしたが、２戸１化、３戸１化によって単身者から夫婦世帯等向けの 30～70 ㎡規模の住戸、44 戸に改修されました。住棟間の共用部棟は、増築によって整備され、共同のキッチン、リビング・ダイニングとなっています。その他の共用室（洗濯室、フィットネスルーム、工房室、ミシン室、サウナ等）は、住棟地下に設置されています。

土地・建物の所有はストックホルムの住宅供給会社ですが、管理運営は居住者が行っています。清掃等の供給会社と契約した作業を行うことによって、居住者が支払った管理費が払い戻される仕組みになっています。さらに、新規入居者の選定も居住者に委ねられています。入居希望者にコレクティブハウスの活動に参加してもらい、互いに理念を共有できるかを確認し、受入れるかどうかを決定しています。

□ｺﾚｸﾃｨﾌﾞﾊｳｽ Sockenstugan の位置図

□ｺﾚｸﾃｨﾌﾞﾊｳｽ Sockenstugan の配置

□建物の外観（住棟）

□建物の外観（増築された共用部棟）

○入居者について

入居者の平均年齢は 80 歳で、約 50 名がここで共同生活を送っています。大部分の入居者が単身者で、女性単身者の割合は約 75%、夫婦で入居している方は 44 世帯中 6 世帯となっています。

入居後に介護が必要となった場合は、外部のヘルパーサービスを利用します。ストックホルムでは、認知症でなければ老人ホームに入所できないため、生活支援サービス等を利用して亡くなるまでこのコレクティブハウスで生活する人が多いようです。

○管理運営の仕組みとコミュニティ活動について

コレクティブハウスの管理運営やコミュニティ活動の企画運営は、全て居住者によるグループで行われています。全部で 20 のグループがあり、食事づくりや掃除、中庭の手入れの担当グループへの参加は必須となっていますが、その他のイベント企画や共用室の管理、新規入居者の面接、広報、経理等を担当するグループへの参加は希望制となっています。

さらに、コレクティブハウスの活動には居住者以外も受入れています。外部の方が活動に参加する場合は、コレクティブハウスのメンバーに登録することが条件となっており、メンバーへの登録可否は担当グループの面接によって決定しています。メンバーとなった後には、居住者と一緒に食事づくりやイベント企画・運営等を行います。メンバーは現在 70 名ほどおり、入居希望者だけでなく、コレクティブハウスの活動自体に魅力を感じて参加している人も多数います。

○居住スペースについて

住戸は 1DK（14 戸）・2DK（22 戸）・3DK（8 戸）の計 44 戸あり、各住戸の広さは 30～70 ㎡程度です。1DK の 1 ヶ月の家賃は 5,000～6,000 クローナ（7 万 5 千円～9 万円）、地域暖房費と共用部の賃料も含まれています。電気代は別途 2,000 クローナ程度（約 3,000 円）かかります。

リビング

キッチン

ダイニング

寝室

バス・トイレ

○コモンスペースについて

平日の夜は入居者が共同で食事をとるコモンミールが開かれます。食事提供の担当グループは 10～12 名で構成されており、1 ヶ月に 1 度当番が回ってきます。担当グループは 1 週間（月曜日から金曜日）分の食材買いだし、調理、配膳、片付けを行います。

食事づくりへの参加は原則として必須となっていますが、高齢で買い物や食事づくりが困難な場合には、各自が出来る範囲の作業を分担します。全ての入居者が少しでもコレクティブハウスの活動に参加出来るよう配慮されています。

担当グループは、２週間前に 5 日間分のメニューを考えて掲示します。食堂での食事は選択制となっており、食事を希望する日を事前に申請します。1 回の食事代は、月曜日から木曜日は 30 クローナ（約 450 円）、金曜日は 40 クローナ（約 600 円）です。月曜日から木曜日は平均 20～30 名、金曜日は 40～50 名の方が利用しています。

コモンダイニング

コモンキッチン

工房

コモンリビング

■視察参加者

第 1 班/平成 27 年 9 月 3 日（木）
　―奥茂謙二、小倉啓太、遠又美穂、市川理紗、福田裕子
第 2 班/平成 27 年 9 月 6 日（日）
　―小浪晋、天野裕介、小川宙也、池田知世、加藤昴士、島村紗也加、趙トン、吉原由莉、天野正昭、藤谷幹

コレクティブハウス視察

■Dunderbacken の概要

Dunderbacken は、ストックホルム・Hägersten に位置（Stockholm Centralstation から電車で約 30 分程度）する、新築のコレクティブハウスです。

建設当初、ストックホルム市街ではコレクティブハウスに定年退職者などの高齢者の入居希望が殺到していました。そこで入居できなかった人らが組合を組織し、公社に要望して、一般の賃貸住宅として計画されていた住宅をコレクティブハウスに変更してもらったものです。そのため、隣接した 2 棟は賃貸住宅として経営されています。

スウェーデンにおいて、コレクティブハウスは、まだ一般的な住宅といえるまで普及しているわけではなく、入居者はコミュニティの研究者やケースワーカーなど知識階層が多いようです。

住戸タイプ・家賃は以下のようになっています。

タイプ（住戸面積）	戸数	家賃（月額・共益費込）
ワンルーム住戸（約 35 ㎡）	20 戸	6,000kr 程度
1ＤＫ住戸（約 50 ㎡）	30 戸	8,000～8,700kr 程度
2ＤＫ住戸など（約 70 ㎡）	20 戸	10,000kr 程度

□外観

□住宅からみた周辺（集合住宅が立地）

□住棟の南側

○入居者について

入居者は 70～80 歳代の方が多く、最高齢で 85 歳くらいで、「共同で何かをする」ことが好きな人が多く、互いのモチベーションにもなっているようでした。入居対象者は、原則子どもと同居していない 40 歳以上の方となっていますが、入居者同意のもと、入居希望のなかった３ＤＫ住戸には子育て世帯３世帯が入居しています。介護職員等の外部サービスの提供はなく、日常生活において介護が必要な場合は、個々がヘルパーを呼んでいるそうです。

住宅の日常的な運営（掃除・配食等）は、入居者の当番制で行われています。自治会は、家賃の集金、自治会費（年額 100kr）の管理、入居者の選定（現入居者との夕食会への招待、面接審査等）、諍いの仲介、会議・総会などを行います。このように入居者が共同で管理等を行うことにより、住宅管理会社に支払う家賃を下げてもらっているようです。

○入居者同士の交流

共用スペースとして、キッチンや食堂、リビングルーム、手芸室、工房、サウナ、フィットネスルーム、ゲストルームなどがあります。共用スペースにある家具等は、入居者それぞれが持ち寄ったソファや本棚、本なども置かれています。また、入居者が描いた絵画なども飾られ、特技の披露の場にもなっているようです。

入居者は、庭の手入れや裁縫、映画、読書など様々な趣味・特技を楽しめるグループに入ることとなっており、入居者同士の交流も盛んです。日本で言う「見守りのシステム」などはありませんが、互いが気にかけあって暮らしており、朝 11 時のティータイムも互いの安否を確認しあえるタイミングにもなっているようです。

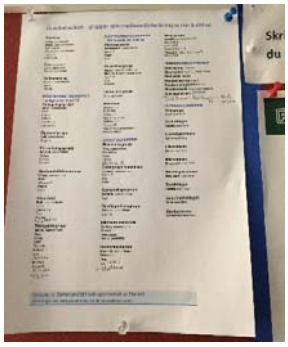
□ガーデン（日光浴を楽しみながら、おしゃべり）

□リビングルーム

□ﾃｨｰﾀｲﾑには手作りお菓子も出てきます

□共用キッチン（レストランさながらの設備もあります）

□手芸ルーム



□趣味・特技ｸﾞﾙｰﾌﾟはこれだけの数が！

○居住スペースについて

居住スペースには、キッチン・バス・トイレ、南面のテラスが備えられています。各戸のテラスには、日光浴を楽しむためのアイテムが並べられ、アウトドアリビングにもなっています。

緊急時は、助けを求めれば、他の入居者がドアを開錠できるような仕掛けも施されています。

□居室スペース（左：ワンルーム、右：1ＤＫ）

□テラス

□玄関ドア

■視察日・参加者

第 2 班/平成 27 年 9 月 7 日（月）― 森俊人、森川禎二郎、森田恭平、木村友紀、西村奈弓

コレクティブハウス視察

■Kollektivhusföreningen Färdknäppen の概要

Kollektivhusföreningen Färdknäppen は、ストックホルム中心部に位置するコレクティブハウスです。

当該敷地は、元々コミューン（自治体）の所有地であり、コミューンがコレクティブハウス建設の方針を定めていました。そこで、子どもの独立を契機に今後の住まい方を検討する有志者 11 名がコミューンと協議し、このコレクティブハウスが建設されました。

コレクティブハウスの設計には、建築家との話し合いにより、最初の入居者となる有志者の意向が反映されています。

建設後の維持管理にあたって、入居者及び当コレクティブハウスの供給会社が行います。

○建築概要

竣工時期	1993 年 6 月	間取り	1～3 室（ベッドルーム）タイプ、37～74 ㎡
住戸数	43 戸（入居 42 戸）	家賃	6,500 クローナ（37 ㎡）～9,800 クローナ（74 ㎡） ※周辺相場並、共用部分の管理費を含む（住戸面積按分）
共用部分 ※入居者のみ利用可能（入居者と一緒であれば友人・家族等も利用可能）	面積 350 ㎡ 地上階：広場、共用キッチン、ダイニングルーム、リビングルーム、図書館、インターネット PC と縫製コーナー、織りの部屋、ランドリールーム、趣味/木工室 来客用の宿泊室 3 室（一泊 30 クローナ、事前予約制） 地下室：トランクルーム、共用パントリー/食品貯蔵室、レクリエーション、サウナ		
セキュリティ	主玄関は常時施錠。入居者以外にヘルパーなどに鍵（又はキーコード）を貸与 主玄関が施錠されているため、各住戸で鍵をかける人は少ない 万が一に備え、入居者は全ての住戸に利用できる共用鍵を所有、過去にはその鍵を利用し住戸内で倒れている入居者を救助したことがある		
改修	手すり等が必要になった場合はコミューンが無償にて設置する		

外観とエントランス部分の入居者の写真等

1

〇コレクティブハウジングに対する考え方

スウェーデンでは共働き世帯が一般的ですが、退職後に元気を無くす人が多いそうです。入居者は、コレクティブハウスの住むことで、退職後にも交流の幅が拡がり、互いに助け合うことに加え、誰かから必要とされることで、いきいきと暮らすことができると考えています。

入居者からは、このコレクティブハウスは人生後半の学校である、ここに住むことで死が怖くなくなったという意見や、独立した子ども世帯も、親がコミュニティのある環境にいることを安心しているという意見を聞くことができました。実際に入居者の子どもや孫が訪問することも多いそうです。

他のコレクティブハウスでは、専門家が食事を提供する場合もありますが、ここでは、入居者が孤立しないことを重視し、食事や掃除などを当番制にしているそうです。

また、この住宅では退去者が少なく長く住み続ける入居者が多く、加えて、様々な知識を持つ入居者が地域で活動・活躍することで、地域に安心感を付与するとともに、地域活性化に寄与し、コミュニティの核になると、入居者は考えています。

住宅内部については、プライベート空間をミニマムなものとし、パブリック空間を大きく使うという考え方にたっています。TV や洗濯機等の共用施設が充実することで、個人所有のものは減る傾向にあるそうです。

また、入居者のエコロジー感覚に優れ、スウェーデン王立工科大学の研究チームからは、この住宅は電力消費量及び食物の無駄が少ないと指摘されているそうです。

〇入居者について

現在の入居者は 54 名、男女比は 1：3 です。既に退職された方が 65%、現役で働いている方が 35%です。コレクティブハウスの運営及び活動等を考慮すると、退職者と現役世代で半数ずつが理想的ですが、現在は少し偏りがあるそうです。

最高齢の入居者 91 歳、1 日 6 回ヘルパーによる在宅介護を受けて生活しています。なお、ヘルパー事業者は自治会で 1 時業者のみに決めています。

コレクティブハウスで亡くなった方もおり、親族が遠方に居住者している場合などで、入居者が看取った例もあるそうです。これまでの退去者のうち、自ら退去を希望された方は 6 名です。

作業スペースともなる共用部のリビングとキッチンと図書スペース

○自治会組織

入居者と入居者以外のメンバーによる自治会が組織されています。現在、入居者 54 名＋入居者以外の自治会員 60 名が所属しています。なお、入居者は入会が義務付けられています。

コレクティブハウスへの入居希望者は、自治会に入会することが条件となります。自治会には原則誰でも入会可能ですが、まず、自治会に手紙を提出、入居者と面談した上で入会となるそうです。

入居者以外の自治会員のほとんどは入居希望者です。自治会員になるとコレクティブハウスの食事や行事に参加することができます。

自治会の総会は年 4～5 回行われており、コレクティブハウスのルール等を決定しています。入居者のみに決定権があり、入居者以外の自治会員は参考意見を述べるまでだそうです。

○入居条件及び入居者決定のルール

45 歳以上の単身者又は夫婦世帯が入居可能です。

空き室の規模が大きい際には単身者不可、入居者の女性比率が高いときには男性の入居を優遇など、入居条件等を付加する場合があります。

空室が発生した場合には、まず、現在の入居者に空室との交換※1 の要望を確認します。入居者からの交換要望が無ければ、入居者以外の自治会員に空室があることが伝えられます。

入居者の最終決定と契約は、コレクティブハウスの供給会社が行いますが、実質的には、自治会が入居希望者の面接を行い、次の入居者を供給会社に推薦するそうです。次の入居者の推薦を供給者会社が断ったことはこれまで無いそうです

また、別の入居方法として、このコレクティブハウスの居住権と他の住宅の居住権の交換※2 があります。この場合は、退去者が次の入居者を決定します。

※1 スウェーデンでは賃貸住宅の入居者同士の合意のみで「居住権」（借家権）の交換が可能（貸主の同意を必要としない）。例えば 1 室（ベッドルーム）と 3 室（ベッドルーム）という規模の異なる住戸交換も可能。賃貸借契約は貸主と結び直すことになる。

※2 居住権の交換で入居する場合は「居住権」の交換が法律で保護されているため、自治会の面接を必要としない。

共用部の木工室、トレーニングルーム、食品庫、ランドリールーム（予約用ボード）

メモリアルとなるボードやキルト

〇生活のルール

入居者には、調理と掃除当番の義務があります。調理と掃除ともに本来は供給会社の仕事ですが、供給会社との調整により、入居者が行うことで供給会社から自治会が報酬を受取っています。なお、得た報酬は、ソファや TV 等の共用部分の設備等にも投資しているそうです。

調理当番は 1 グループ 8 名で編成しています。月～金曜日の夕飯の買い物・調理・片付けを行います。なお、夕食は選択式で、入居者は当日の午前 9 時までに希望を伝えるルールです。毎日 40～50 食を用意することになるそうです。食事時間は 17 時半～19 時まで、1 食 27 クローナです。

入居者以外の自治会員も夕食に参加可能ですが、調理の当番に加わることが条件となります。余った夕食は誰が食べてもＯＫというルールになっているそうです。（ただし、夜中に冷蔵庫は開けるとアラームがなるそうです。）

〇生活トラブルへの対応

入居者間でトラブルが発生した場合には、共用のソファで当人同士の話し合いをしてもらうそうです。この話し合いを「ソファ民主主義」と呼んでいるそうです。

当人同士の話し合いで解決しない場合は、全体の会議で話し合いを行うそうです。

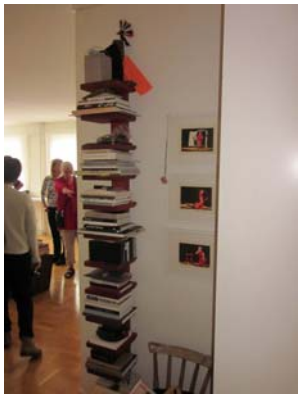
〇サークル及びコミュニティ活動

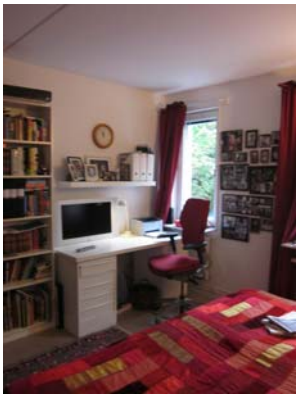
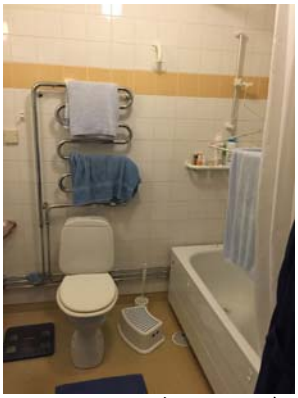
サークル活動が盛んで、ヨガやパーティー企画、庭の手入れなど、15 グループが活動しているそうです。庭の手入れについては、調理と掃除同様に、供給会社の仕事を入居者自らが行うことで、報酬を得ているそうです。

外部とのコミュニケーションとして、小学校教育と連携しており、放課後に小学生が宿題をするためにコレクティブハウスに来るそうです。また、移民向けのスウェーデン語教室も開いています。これらの活動は、コミューンとは無関係で、入居者の自主的な提案により実施しているそうです。

■視察参加者

第 3 班/平成 27 年 9 月 6 日（日）―森岡憲佑、柳橋広明、鈴木貴仁、小南芳江、上野朋子



個人の居室

高齢者施設視察

■ Attendo Kungshamn の概要

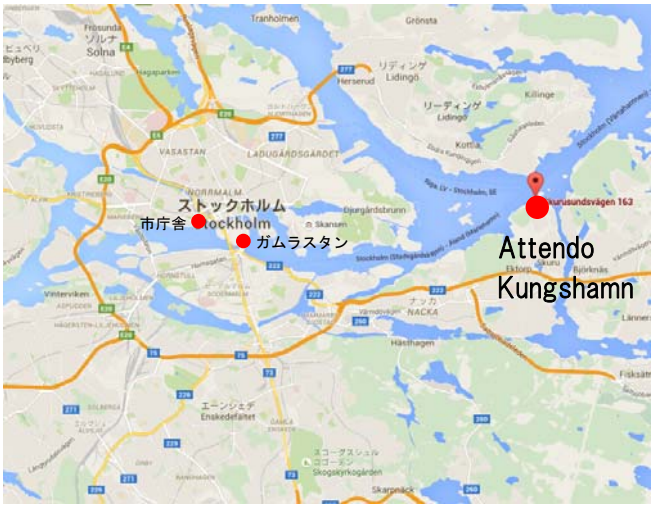
Attendo Kungshamn は、ストックホルム中心部から東に約 15km、車で 20 分の立地に位置する、認知症の方を対象とした高齢者施設です。入居者が「自分の家」として感じられるよう、全室が個室となっています。

大きなコンセプトは「自然・庭」です。屋外には、入居者が自由に出たり手入れをしたり出来る大きなガーデンがあります。また施設のインテリアも緑が多く、自然を感じられるようになっています。ドッグセラピーの観点から、施設として犬を 1 匹飼っており、入居にあたってペットの同居も可能です。

建物は、スウェーデンの建築物に古くからみられる白い縁と赤い外壁のデザインであり、入居者にとって馴染みのあるもの※１です。

スウェーデンでは、公営の高齢者施設と、民間の高齢者施設がありますが、どちらに住んでも入居費等の負担額は同じです。入居者は入居費等を市に支払い、民間施設の場合は市が施設にサービス料を支払うという仕組みをとっています。入居費等の負担が難しい高齢者については、市から住宅補助を得ることができます。

※１赤い外壁が見られるようになったのは１８５０年代以降、ファルドーゲンという銅を扱う会社が、余った銅を塗料として使うようになったのが発祥といわれています。外壁の腐食を防ぐ効果もあると言われています。



□建物の外観

□自然をテーマとしたインテリア

〇入居者、職員について

入居者は現在 59 名で、8～12 人から成るグループを形成し、それぞれに共同リビング・キッチンなどを持っています。グループは、65 歳以上のグループと 65 歳未満のグループに分かれています。

スタッフは、延べ 100 人（うち 20 人は臨時職員）がシフト制で働いており、午前中 5 名、午後 4 名、夜間 1 名がケアに当たっています。施設の特徴でもあるガーデンでの作業をサポートするため、理学療法士や作業療法士も働いています。

〇居住スペースについて

個室には、リフト付ベッドのみが備え付けてあり、それ以外の家具はすべて、従前の家から持ち込むことが基本となっています。これは、認知症の入居者にとっての環境の変化を小さくするためです。車椅子利用者など様々な身体状況の入居者がいるため、入居前に療法士と相談しながら、入居者の身体状況にあわせて個室の変更も行います。

個室には小さなキッチンがあり、通常は安全のために電気を止めていますが、家族が来た場合などはお湯を沸かすことができます。

個室は全てオーシャンビューとなっており、この地域に多いサマーハウスのイメージを有しています。

□個室（入居者の持ち込みによる家具）

□個室（入居者の持ち込みによる家具）

〇グループごとの共用部について

8～12 人のグループごとに、リビングとキッチンを共有しています。朝食は基本的に自分で準備します。共用リビングからは広いバルコニーに出ることができ、スウェーデンでの一般的な生活スタイルと同じく、外で食事を取ることができます。

□バルコニー

□共同リビング

○集会室について

集会室では、映画鑑賞、インターネット、ピアノなどの楽器演奏、運動、ゲーム、読書などの様々な活動が行えます。また年間を通して、様々なイベントが行われています。

入居者の家族は 24 時間訪れることができ、共用部も自由に使うことができます。

□集会室

□集会室（図書コーナー）

○ガーデンについて

施設の特徴でもある庭は、一年中使うことができるよう、温室も備えています。また、寒い時期が長いことから座面が温まるベンチも設置されています。

入居者が口に入れてしまっても健康に影響のない植物を採用しており、理学療法士や作業療法士のアドバイスを受けながら、入居者が手入れを楽しんでいます。入居者には、1 日 1 回必ず外に散歩にでるように促しています。

□ガーデン

□ガーデンに面した屋外スペース

■視察参加者

第 1 班/平成 27 年 9 月 4 日（金）

―押野芳輝、押野圭子、柴田武志、山田敏人、金永埈、佐藤介一、石見康洋、印部里菜子、田中有理、福田裕子、牧祐生、東尾和子、秋山恵美子

高齢者施設視察

■ Hornstulls Äldrecentrum の概要

Hornstulls Äldrecentrum は、ストックホルム・セーデルマルム島の Lignagatan に位置するサービスハウスです。Stockholm Centralstation から電車で約 10 分程度、最寄り駅から徒歩４分と、中心部に近い立地にあります。

1984 年に建設され、ケアワーカー150 名、看護師 15 名が勤務しています。サービスハウスの他にナーシングホームやグループホームの居室もあり、更にデイケアセンター等が併設されています。

□施設概要

施設種類	室数
サービスハウス	145 室
ナーシングホーム	64 室
グループホーム	８室
入居者のためのデイケアセンター	―
高齢者のためのアクティビティセンター	―
理髪店	―
フットケア・クリニック	―
レストラン	―
市立図書館（分館）	―

□中庭から見た住棟

□エントランスから接続するアクティビティスペース

○入居者について

この施設には認知症高齢者が約 30 名、身体障害者が約 20 名居住しています。

80 歳以上の入居者が多く、１室の面積は 40～60 ㎡程度となっています。

家賃は約８万円、更に介護費が２万円、食費が２～３万円程度かかりますが、支払いが難しい入居者については市が費用負担する仕組みとなっています。

〇併設施設について

施設内にはサークル活動等のために安く借りられるセミナー室や理髪店、レストラン、市立図書館の分館があり、それらの施設は高齢者以外の一般の人も利用できます。また、デイセンターで行われるアクティビティには、近隣の高齢者は誰でも参加することができます。

市立図書館の分館ではインターネットの利用も可能であり、他の図書館に所蔵されている本を取り寄せることも出来ます。同様の分館は、市内の病院内にもあるようです。

このように、近隣の一般の人も利用できる施設を併設していますが、実態として若い人と高齢者との交流はあまり無いとのことでした。

□オープンテラスから中庭に出ることができる

□レストラン（エントランスホールに接続している）

〇高齢者の自立を促す工夫

施設には、オープンテラスに接続する緑豊かな中庭があり、高齢者が散策できるようになっています。

中庭の散策路に沿って健康器具が配置されており、また、中庭から住棟へのアプローチは、歩行訓練の意味合いも込めて、敢えて階段が設けられています。

□中庭に設けられた健康器具

□中庭から住棟へのアプローチ（階段）

□曜日別のアクティビティ等の掲示

～高齢者グループホーム、ナーシングホーム・Tibblehemmet～

■ Tibblehemmet の概要

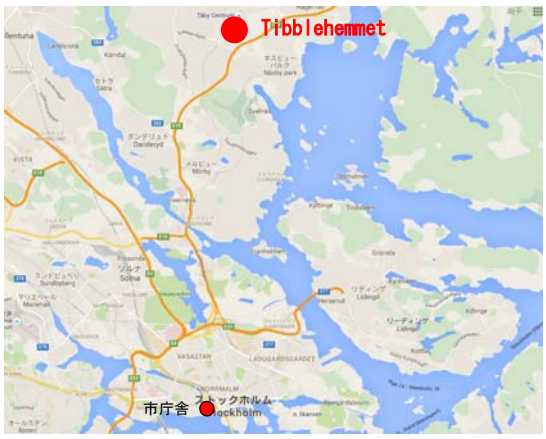
Tibblehemmet は、ストックホルム中央駅から北へ車で約 20 分の郊外であるタビー市に位置する認知症高齢者グループホームです。

Tibblehemmet は、市からの委託で Attendo CaraAB という会社が運営しています。建物は市が所有・管理しています。

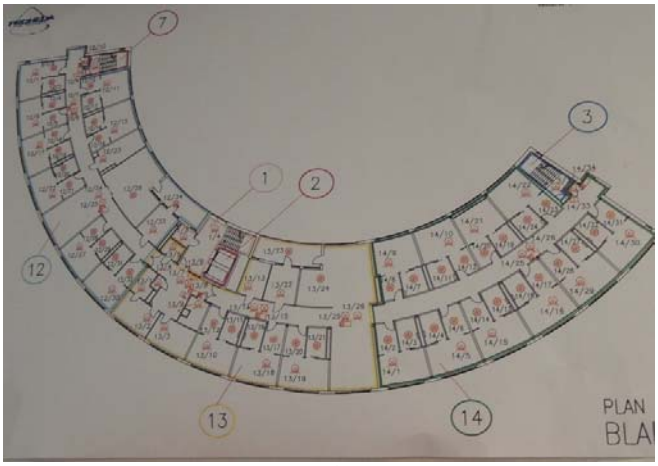
建物は築約 10 年。１ユニット８～13 人のユニットで構成されており、入居者は現在約 100 名です。

スタッフとして看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士が勤務しています。看護師は 24 時間体制です。

なお、スウェーデンでは、グループホームに入居するには、自分の住んでいる自治体のケアマネージャーから承認をもらう必要があります。



□エントランスから見た建物外観



□平面図（１フロアあたり３ユニット）

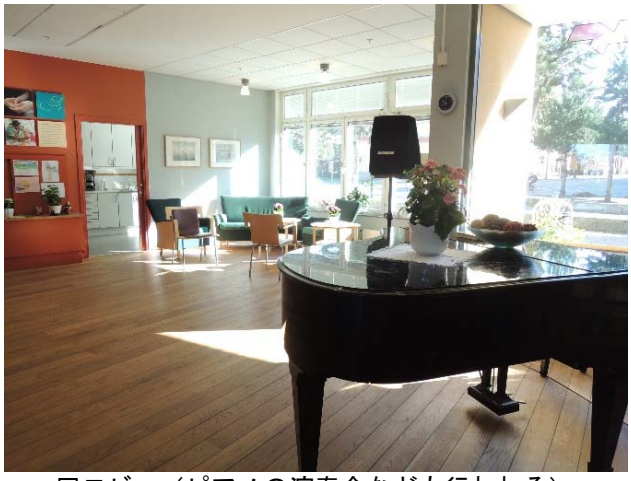
○「施設」ではなく「住宅」として豊かに過ごせる工夫

入居者は賃貸借契約を交わします。個室１室の面積は 27～35 ㎡で、トイレ、シャワー、ミニキッチンがあります。家具、カーテン等は全て入居者の私物です。

庭には菜園があり、健康器具を使って運動をしたり、外でご飯を食べたり、散歩なども楽しめます。

ロビーにはゆっくり読書できる空間や入居者同士で団らんできる空間などがあります。

□全てのユニットから出入りできる庭



□ロビー（ピアノの演奏会なども行われる）

○バリアフリー等の工夫

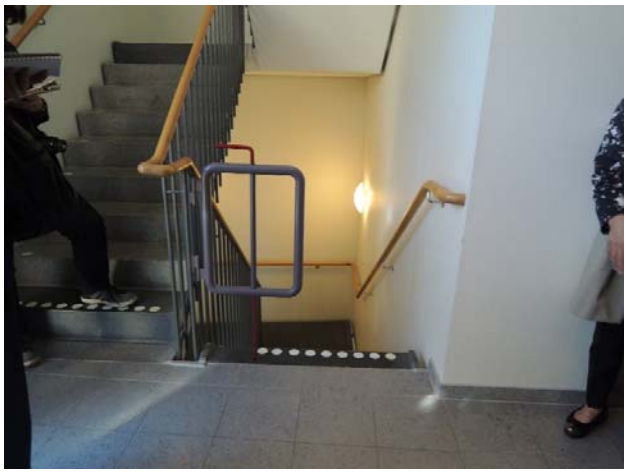
全ての住戸には身体に障がいがある入居者のためのリフトやベッドが備え付けられています。リフトが必要な入居者は現在 10 名程度いるとのことでした。

また、共用部分については、自分の居場所が分からなくなりやすい認知症高齢者のために、廊下の見通しを良くし、ユニット単位で短く区切るように工夫しています。

□住戸に設置されたリフト

□介助スペースが確保されたトイレ、シャワー

□個室入り口からみた廊下



□ストッパーが設けられた階段

□見通しの良い廊下

■視察日・参加者

第 3 班/平成 27 年 9 月 8 日（火）―桜井孝裕、牧野純子、岡阪浩、荒井一樹、増田亜斗夢、永井竜太、大庭矩文、庫川知児、重井真弓、柴田尚子、金芸麗、中川紫乃、蠣橋明美